

# イエーテボリから広州へ ——260年を超えた夢

H.J.W 記者(中国)

2005年10月2日、一隻の帆船はスウェーデンのイエーテボリから出航した。同日、今回の航海の目的地である中国の広州に向けて、テレビ局の生中継を通じ多くの人々が注目した。その晩、盛大な祝賀イベントは「南海神廟」で開催された。



イエーテボリから  
出航した「イエーテボリ号」



南海神廟で開催された  
祝賀イベント

260年前、つまり18世紀前半は、中国の経済、文化が盛んだった清朝の時代だった。海のシルクロードの一部として、ヨーロッパから中国の航海ルートは開かれた。スウェーデンの東インド会社も、「イエーテボリ号」(Götheborg)という帆船を作り、三回広州に到着、お茶、シルク、磁器など人気がある商品をヨーロッパに運んだのだった。

しかし残念なことは、1745年9月12日、「イエーテボリ号」が中国から貨物を満載し、イエーテボリの港まで1キロメートルしかないところで、激しい風と雨のため沈没してしまったのである。その後、東インド会社は「イエーテボリ2号」を作ったが、それも南アフリカ沖で沈没した。それから260年、イエーテボリから広州への航海は夢となっていた。

「イエーテボリ号」の残骸は1984年に一人のダイバーによって発見された。1986年の搜索は磁器のような貨物と船の部品をたくさん見つけた。新しい東インド会社は1995年に新しい「イエーテボリ号」を建造し始めた。この帆船の作り方は全部伝統的な方法で、船の形と大きさが原型と同じだけでなく、動力も260年前のような水力と風力のみだった。



260年前の  
「イエーテボリ号」の姿



「イエーテボリ号」を迎えるために今年  
1月広東にできたばかりの新しい帆船

「イエーテボリ号」は現在、260年前と同じルートで、広州をめざし、航海している。広州の人々も、今年7月に「イエーテボリ号」を迎えるために、昔の遺跡を修復し、新しい帆船もできたばかりである。

### ※補足資料

#### 「イエーテボリ号」のルート

イエーテボリ（スウェーデン）——カディス（スペイン）——レシフェ（ブラジル）——ケープタウン（南アフリカ）——フリマントル（オーストラリア）——ジャカルタ（インドネシア）——広州（中国）——上海（中国）——香港（中国）——イエーテボリ（スウェーデン）

イエーテボリ（Göteborg, 英語では Gothenburg）はヴェストラ・イエッタランド県に属するスウェーデンの都市である。人口は約48万人で、スウェーデンの中でストックホルムに次いで2番目に大きな都市であり、北欧でも4番目の大きさの都市である。ヴェストラ・イエッタランド県の県庁所在地。綴りや英語名からわかるように、「ゴート人の都市」を意味する。

広州（こうしゅう、Guangzhou）は中国南部広東省の省都であり、華南地区全体の行政的中心でもある。副省級市として省と同様の経済的な権限を与えられている。面積7,434平方キロ、人口約713万人。ただし流動人口が約300万程度と推定され、実質の常住人口は約1,000万人とみられる。北京、上海に次ぐ中国第3の大都市。昔から羊城と愛称され、また「花城」「穗城」の名もある。  
(2006/03/06)

### ※関連資料（英語）

Gothenburg

<http://www.goteborg.se/prod/sk/goteborg.nsf/1/english?OpenDocument>

Guangzhou

[http://www.guangzhou.gov.cn/node\\_420/](http://www.guangzhou.gov.cn/node_420/)

THE SWEDISH EAST INDIA COMPANY

<http://www.soic.se/engelska/inenglish.4.1e228bcf782be0db97fff408.html>

(2006年1月30日付)